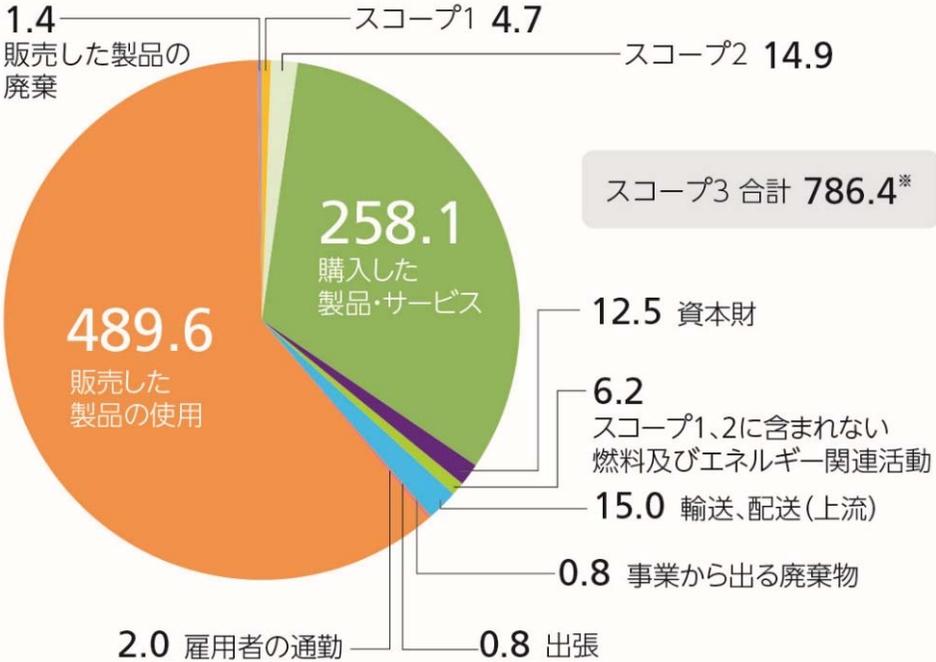


アズビル株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 業種：製造業（電気機器） ● 事業概要：計測機器、センサ、フィールド機器等の製造、販売。及び、監視制御システム、ビル管理システム等の構築、サービス、環境・省エネソリューションの提供等。
2.削減目標案	<p>＜<u>Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み</u>＞</p> <p>目標：総量同率削減手法を用いて設定</p> <p>取組：自社省エネ施策の強化（自社省エネビジネスの知見・経験を活かした運用改善・設備改善の両面、LED導入、生産工程改善、働き方改革など）、再生可能エネルギーの導入、エコカーへの切替等</p> <p>＜<u>Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み</u>＞</p> <p>目標：スコープ3全体での総量削減目標を設定</p> <p>取組：環境配慮設計による、調達段階、使用段階での負荷削減（カテゴリー1、11、12）等</p>

アズビル株式会社

項目	内容																													
<p>3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意] ※基準年が異なるため、最新のGHGインベントリを記載</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope 1・2・3の排出量の状況 	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE1 : グラフ記載 																												
	<p>CO₂排出量(スコープ1、2、3)の状況 (2017年度) アズビル株式会社 (千トンCO₂)</p>  <table border="1"> <caption>CO₂排出量(スコープ1、2、3)の状況 (2017年度)</caption> <thead> <tr> <th>スコープ</th> <th>項目</th> <th>排出量 (千トンCO₂)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スコープ1</td> <td>スコープ1</td> <td>4.7</td> </tr> <tr> <td>スコープ2</td> <td>スコープ2</td> <td>14.9</td> </tr> <tr> <td rowspan="8">スコープ3 合計 786.4*</td> <td>販売した製品の廃棄</td> <td>1.4</td> </tr> <tr> <td>購入した製品・サービス</td> <td>258.1</td> </tr> <tr> <td>販売した製品の使用</td> <td>489.6</td> </tr> <tr> <td>資本財</td> <td>12.5</td> </tr> <tr> <td>スコープ1、2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動</td> <td>6.2</td> </tr> <tr> <td>輸送、配送(上流)</td> <td>15.0</td> </tr> <tr> <td>事業から出る廃棄物</td> <td>0.8</td> </tr> <tr> <td>出張</td> <td>0.8</td> </tr> <tr> <td>雇用者の通勤</td> <td>2.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>算定範囲 スコープ1,2: アズビル株式会社、国内連結会社及び海外主要生産拠点 スコープ3: アズビル株式会社。一部、国内連結会社及び海外主要生産拠点も含む ※CO₂排出量(スコープ1、2、3)について、第三者検証を受けています。</p>	スコープ	項目	排出量 (千トンCO ₂)	スコープ1	スコープ1	4.7	スコープ2	スコープ2	14.9	スコープ3 合計 786.4*	販売した製品の廃棄	1.4	購入した製品・サービス	258.1	販売した製品の使用	489.6	資本財	12.5	スコープ1、2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	6.2	輸送、配送(上流)	15.0	事業から出る廃棄物	0.8	出張	0.8	雇用者の通勤	2.0	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE2 : グラフ記載
	スコープ	項目	排出量 (千トンCO ₂)																											
スコープ1	スコープ1	4.7																												
スコープ2	スコープ2	14.9																												
スコープ3 合計 786.4*	販売した製品の廃棄	1.4																												
	購入した製品・サービス	258.1																												
	販売した製品の使用	489.6																												
	資本財	12.5																												
	スコープ1、2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	6.2																												
	輸送、配送(上流)	15.0																												
	事業から出る廃棄物	0.8																												
	出張	0.8																												
雇用者の通勤	2.0																													
<p>算定範囲 スコープ1,2: アズビル株式会社、国内連結会社及び海外主要生産拠点 スコープ3: アズビル株式会社。一部、国内連結会社及び海外主要生産拠点も含む ※CO₂排出量(スコープ1、2、3)について、第三者検証を受けています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE3 : グラフ記載 目標の対象セクター : 1,2,3,4,5,6,7 11,12 																													

アズビル株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none"> ● 多くの企業が自社省エネに取り組む必要性が高まり、省エネビジネスを業としている当社にとって、ビジネス拡大の機会となる。 ● 温室効果ガス排出の価格上昇/各国の政府がパリ協定のもと、事業からの温室効果ガス排出量を規制する場合、必要な費用は操業コストを増加させる可能性がある。 ● WRI Aqueductによるリスク評価では、海外のazbilグループの活動拠点で、生産・物流の業務に影響が出る可能性がある。
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none"> ● 本業を通じて地球環境負荷削減に貢献するとともに、自社の事業活動を通じた環境負荷も削減する。中長期ビジョンをSBTとして示し、スコープ1, 2を超えた環境施策、目標などを紐づけ、より中長期的な視点を持ちながら環境取組みを推進できる。 ● 自社の顧客企業の多くがSBT認定・コミットしている中で、省エネビジネスを業としている当社は当然申請するべきと考えている。 ● 環境への意欲的な取組みを社外にもアピールすることで、企業価値の向上、評価の向上につなげる。

アズビル株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● 環境推進部が目標値を算出し、環境担当役員の承認を得たのち、経営会議にて審議する。● 目標値達成に向けた諸施策の検討においては、従来の施策に世の中の信頼あるエネルギー削減関連情報（LED普及率など）で2030年の試算することをベースとする。それでも不足する分を再エネの自社への導入などを追加した。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● スコープ1, 2において、継続的な省エネ施策の実施。● スコープ3における主施策である環境配慮設計の実施。● データの精緻化